

第1回 (前回議論内容)		第2回 (今回議論内容)		
課題を解決するために不足している視点	長期的視点による本地に真に適している必要な機能	議題(3) 必要な機能、サービスを提供するための場のあり方、時間・空間的工夫	議題(4) 地域共生社会実現のためのサービス提供主体やあり方	
コミセンと本地の役割分担・連携	多世代交流を実現できる具体的な空間、機能は何か	保育士でなくても子育て経験のある方が気軽に相談に乗ってくれる場	常設型で0123より小規模な子育て広場	
		乳幼児親子がお年寄りと触れ合える場	お昼は乳幼児親子と高齢者、夜は比較的若い人と中高生、大学生まで含めて利用できるコミュニティ食堂があると、世代間交流を含めた活発な活動ができるのではないかと。	
		テンミリオンハウスのような市民の互助・共助の力で支え合い、かつそこから新たに交流も生み出されるような場	テンミリオンハウス花時計は、2階には子育て世帯のお母さんと赤ちゃんが来ており、お昼の時間だけ高齢者と親子と一緒に食事をして交流し、多世代交流もありながらほどよい距離感もある場を実現している。 テンミリオンハウス「ふらっと・きたまち」ではお昼が400円で提供され、プログラムに参加しなくても新聞を読んでいるだけでもいいといわれているので男性一人でも気軽に来られる。	・高齢者といっても、お世話をする人、される人ということではなく、役割が固定化しないような考え方 ・テンミリオンハウスでは、利用者が講座の講師になるという例があり、本来であれば支えられる側の人も役割を発揮できる場として機能している
	WSに参加していない方、普段地域行事に参加しない方のニーズをいかに補填するか	東コミセンで実施した「暮らしの保健室ミニ」という企画で、普段地域で見かけない若い方も相談にみえた。 気持ちが弱っていて積極的に行動できない方、あるいは大分お年を召されて、整理して問題を考えることができなくなってしまった方々が気安く立ち寄れて、困りごとの解決につないでもらえる場 広場にも出てこない人、こもってしまう人を支援できる場 小学校高学年で塾や習い事に行っていない子の居場所 帰宅部の部室のような、部活に入っていないような中高生の居場所		
		人材発掘・人材育成の場		テンミリオンハウスでは、利用者が講座の講師になるという例があり、本来であれば支えられる側の人も役割を発揮できる場として機能している
		マギーズ東京のような、がんに関わる方への支援の場		
	外国人の視点			
	障害者の視点			
	災害時の対処が必要		バーベキュー装置	
			時間・空間の工夫という指摘にあるように、週と一日のどの時間にどの部屋がどのように使われているのか整理するとよい	

- 保育園のニーズはある程度落ち着いている
- 一時保育、病後児保育はニーズはあるものの、実際開いてみるとそんなに利用がない

その他WS等での市民提案(第1回資料6参照)
<ul style="list-style-type: none"> ・多目的スペース ・子どものフリースペース ・サロン ・大人のプレールーム ・看多機 ・ショートステイ ・診療所 ・トレーニングルーム